

事務事業名		鹿の森公園管理運営業務委託		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05: 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	23: 豊かな地域資源を活用した観光の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02: 観光資源の発掘と連携				01	06	02	05	00
根拠法令										
所属	部課名	農林水産部農林課		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成4 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	林業係	電話		44-2112					
			内線		121					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ)				
鹿の森公園は温浴施設や宿泊施設、バーベキューハウス等を備え、市民の保健休養、森林愛護及び環境保全意識の醸成、自然とその資源をいかしたまちづくりを推進することを目的に整備された森林レクリエーション施設であり、これらの施設を市民や市外の観光客に安全で快適に利用してもらうよう、指定管理者に委託して適切に管理運営する事業。 主な業務内容 施設維持管理を指定管理者(三陸ふるさと振興株式会社)に業務委託するための契約事務 施設の管理運営・利用状況の確認及び実地調査 指定管理者に対する管理業務、経営状況等に関する指導 事業費は、公園の草刈り・清掃、宿泊施設・温浴施設・消防設備・浄化槽施設・電気設備等の点検や維持管理、鹿飼養業務の管理人件費として委託料から支出される。						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	
									都道府県支出金	
									地方債	
									その他	
									一般財源	
									事業費計(A)	0
人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間									
	人件費計(B)	0								
トータルコスト(A)+(B)										0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 指定管理者と鹿の森公園の管理運営に関する年度協定書を締結し、施設を適切に管理運営した。		名称		単位
		ア	鹿の森公園施設修繕件数	件
		イ	営業日数(遊・you・亭夏虫)	日
		ウ	年間利用者数(遊・you・亭夏虫、お湯っこ)	人
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 指定管理者と鹿の森公園の管理運営に関する年度協定書を締結し、施設を適切に管理運営してもらう。		対象指標(対象の大きさを表す指標)		
		名称		単位
		カ	維持管理施設数	箇所
		キ	年間利用計画者数(市民等)	人
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・鹿の森公園の施設 ・鹿の森公園利用者(市民、観光客)		ク		
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 市民や観光客が安全で快適に利用できるようになる。		名称		単位
		サ	年間利用計画達成率 (延べ利用者数 / 利用計画者数)	%
		シ	延べ利用者数 (遊・you・亭夏虫、夏虫のお湯っこ)	人
		ス		
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・宿泊してもらう。 ・体験してもらう。				

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円					61,044	
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	5,062	5,767	11,596	4,983	15,594	4,755
	事業費計 (A)		千 円	5,062	5,767	11,596	4,983	76,638	4,755
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	2	1
	延べ業務時間	時 間	100	100	100	100	500	100	
	人件費計 (B)	千 円	400	400	400	400	2,000	400	
	トータルコスト(A) + (B)		千 円	5,462	6,167	11,996	5,383	78,638	5,155
活動指標		ア	件	18	14	18	20	80	3
		イ	日	365	365	365	365	365	365
		ウ	人	78,610	81,620	77,988	79,314	78,856	72,474
対象指標		カ	箇所	4	4	4	4	4	4
		キ	人	77,000	77,000	77,000	77,000	77,000	77,000
		ク							
成果指標		サ	%	102.1	106.0	101.3	103.0	102.4	94.1
		シ	人	841,975	923,595	1,001,583	1,080,897	1,159,753	1,232,227
		ス							

事務事業ID	0575	事務事業名	鹿の森公園管理運営業務委託
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

市民の保健休養、森林愛護及び環境保全意識の醸成、自然とその資源をいかしたまちづくりを推進するため「緑と鹿のふれあい広場（バーベキューハウス）」「ふるさとふれあい公園」「森林総合利用施設（遊・you・亭夏虫）」の3つの施設を包括して平成4年4月1日から運営を開始した。さらに、平成8年10月1日には「森林体験交流センター施設（夏虫のお湯っこ）」の運営も開始された。

事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・平成8年度に入浴施設「夏虫のお湯っこ」を開業したが、平成12年5月に大船渡市内に気仙初の本格的な温泉として第三セクターが運営する五葉温泉が開業し、平成16年4月には、近隣の陸前高田市が広田町に整備した黒崎温泉保養センターが開業するなど、経営環境が厳しくなっている。

・開業から19年以上経過した施設の内外装・設備等には、老朽化がみられるようになってきている。

この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

施設の老朽化に伴い、利用客及び指定管理者から、適切な維持管理が求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 委託された指定管理者が施設を適切に維持管理することによって、市民や観光客が安全で快適に利用できるようになることから、観光資源の発掘と連携につながる事業である。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 公共施設の適正な維持管理は市の義務である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 本事業により、森林公園施設が適切に管理運営されるとともに、利用対象者となる市民や観光客に安全で快適に施設を利用してもらうことになるので、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 利用者の多様化するニーズに的確に対応し、より充実したサービスを提供することで、利用者数の増加が見込まれる。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 補助金を導入した施設のため、廃止・休止した場合は、相当の補助金等の返還義務が生じるとともに、同施設は五葉山自然公園内にあるため、適切に管理されなくなった施設が荒廃し、公園内の環境悪化を招くおそれがある。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 市が直営で運営することは不可能であり、適切な管理運営を行うためのノウハウを有している業者に委託することが最善の方法であると考えられる。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☒ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由] 指定管理者との年度協定により、平成25年度まで年々削減する方向である。
	人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 通常業務のほか、施設・設備の故障時には現状の確認や修繕にあたって指定管理者との協議等が突発的に発生することから、これ以上の業務時間の削減は困難である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 施設利用者には、受益者負担として地元民宿等民間事業者を考慮して設定した宿泊料や入浴料など、応分の負担をしてもらっていることから、公平・公正である。

事務事業ID	0575	事務事業名	鹿の森公園管理運営業務委託
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 利用者数は、利用計画者数とほぼ同数という実績であり、多くの方々に利用されるとともに、施設が適切に管理・運営された。 今後は、指定管理者の経営努力により、さらに集客を高めつつ、事業費の削減を図ることとしている。 また、施設の老朽化に対応した大規模修繕が必要である。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 指定管理者において利用者の多様化するニーズに的確に対応しながら、各種イベント等によって、集客の向上を図る。指定管理料については、契約期限である平成25年まで毎年度10万円ずつの削減目標を立てて実施しているが、今後は施設の老朽化に対応し、計画的な設備等の更新が必要である。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			●																				
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

利用者ニーズを把握し、それに見合ったサービスを提供することにより、利用者の増加を図ることができる。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

現状どおり継続して事業を実施する中で、利用者アンケートに取り組むよう検討する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項